

### ―対立と混乱では「岩国がダメになる」

（畑原） こういう対談の機会を持てることをとても嬉しく思います。一緒に県議会で活動した時期もありましたが、その時、福田市長に凄く清新さを感じました。まじめに一生懸命に頑張られる姿が印象的でしたが、それは市長になられてからも変わりませんね。国政から市政に転じられて1年が過ぎようとしています。市長としてのこの1年はいかがでしたか。

（福田） 課題山積の中で市長就任でした。対立と混乱ばかりを繰り返す前市長の下で、何も進まない9年が過ぎて、岩国が沈滞していることを肌で感じていました。合併して新しい市としてスタートしたのに、何も進まない状態に「何とかしないと岩国がダメになる」という思いだけで市長選に立候補しましたが、本当に多くの方の応援、ご支援をいただいたので当選させていただきました。市長になって感じるのは、何より、岩国市が直面している課題を早く解決しないといけないということ。そして、岩国市は素晴らしい可能性を持っているのだから、それを引き出す取り組みをしないといけないということですね。

（畑原） そうですよ。市長就任直後は、新しい市庁舎の財源問題からはじまりましたからね。

（福田） ええ。そのことがもう、随分と前のことに思えるほど、この1年は山積する課題への対応に追われた感じなんです（笑）。でも、市庁舎への補助金や米軍再編にもなる交付金も、県や国としっかり話し合う中で、解決することができました。話し合いの過程

とを前提に話を進めるのは理解が得られないと思います。

（福田） 愛宕山開発事業による市の負担金は87億円。大きな負担ですから、一方ではこの問題の解決も急がれます。岩国医療センターの移転や愛宕山地域の土地の問題などは、県や国の協力を得て進めないと解決できない問題です。幸い、県や国とは話し合いができる関係になりましたから、課題の解決に向けた検討を進められる環境になってきたと思っています。

（畑原） 地域の思いをきちんと伝えながら、県や国と一緒に課題を解決していくのが政治だと思っていますから、私も福田市長さんと一緒に、これから頑張りたいと思いますよ。

### ―民間空港の再開、地域活性化の起爆剤

（福田） 凄く心強いです。米軍再編にともなう安心安全対策の確立や民間空港の再開も大きな課題です。これから岩国を活性化させるためには、交通機能、それも首都圏と直結した航空路の開設は大きな起爆剤になると考えていますから、民間空港の再開も具体化させないといけません。

（畑原） 県議会の総務企画委員会でも、民間空港の再開は大きな課題になっています。空港整備基本計画も策定されましたが、どの航空各社の意見も、東京―岩国のルートは黒字の見込める路線です。今は1日4便の予定ですが、増便も期待できるし、地域にとっても観光やビジネスなどでの利用が見込まれ、交流人口の拡大につながる起爆剤です。ターミナルなどの施設の整備やアクセス道路の整備など解決

程では、県議会で総務企画委員長を務められている畑原さんの存在がとても心強かったです。

### ―国立岩国医療センターの移転は最優先課題

（畑原） 課題のひとつに国立岩国医療センターの愛宕山地域への移転がありますね。県東部地域の中核的な病院という役割だけでなく、黒磯町にある今の立地条件では、救急医療体制に対応できないし、早期の導入が必要なドクターヘリなどにも対応できません。移転は急がれますが、新病院の用地取得や機能、跡地の問題など、岩国市だけでは解決できない課題が多すぎます。私も県議会で、県東部地域の医療体制を充実するためにも、この課題の解決には知事のリーダーシップが必要と訴えましたが、県と市、国が連携して、早く実現しないとといけない課題です。

（福田） そのとおりです。私も最優先の課題として取り組んでいます。前市長の下で、ただ漠然と移転という方向だけは示されましたが、具体的なことは何も詰められていないので、用地問題をはじめとして、今、ひとつずつ詰めているところです。

（畑原） 大きな事業ですし、財政的に厳しい今の岩国市にとって、この問題を解決するためには財源のことも大切ですよ。

（福田） ええ。財源的には市にとって大きな負担です。ですが、岩国医療センターは県東部の「安心できる医療体制」の要となる病院です。絶対に実現しないといけない。また、移転先となる愛宕山地域開発事業の用地は、全体で60畝の開発面積のうち15畝を病

れないといけない問題も多いですが、絶対に実現しないといけないプロジェクトです。

（福田） 今、岩国の中心市街地、特に商店街の衰退が懸念されていますが、空路の開設を起爆剤にして企業誘致などによる定住人口の増加も期待できますし、また、交流人口が増えれば、うまく中心部にも誘導していくことで市街地の活性化にもつながりますから、民間空港の再開は是非とも実現したいと思っています。

### ―急がれる周辺地域の活性化

（畑原） 平成18年3月に新市としてスタートした岩国市も4年目を迎えます。これまで、米軍再編に反対というスローガンだけで市政が混乱して新市づくりに必要な取り組みが進められず、周辺地域の活力が一段と削がれた感じがします。中心部だけでなく、周辺地域の活性化も急がれますね。また、お隣の和木町との連携も。

（福田） そのとおりです。和木町とは産業面、生活面でのつながりも深いから、連携が欠かせません。市長になって改めて感じるのは岩国市の広さです。本当に広いです。県内で一番面積が広い市ですから。でも、その分、各地域に素晴らしい資源があります。玖北地域の自然や伝統文化、瀬戸内海沿岸部の美しい海、玖西地域は企業立地も進んでいます。錦帯橋という世界に誇る文化遺産もありますから、こういう資産、資源を活かして、地域づくりを進めないといけないし、子育て支援や教育、高齢者福祉、防災対策の充実などにも全力で取り組む覚悟です。

院などで利用する「まちづくりゾーン」と位置づけていますが、残り45畝は国に買い取りを要請しています。私はこの土地の利用が米軍再編にともなう必要となる「米軍住宅ありき」では、市民の理解が得られないと思っています。だから、将来的な利用計画は、地域の思いも踏まえて検討していただきたいと国に強く言っています。

（注）愛宕山地域開発事業は、岩国基地滑走路の沖合移設に必要な埋立て土砂を愛宕山から採掘し、その跡地を住宅用地として売却することを予定して、県と岩国市が共同で着手した開発計画で、県の低送等により住宅地として売却は184億円以上の赤字が見込まれるため、計画が中止され、現在、県と市は国に対して買い取りを要請している。

### ―愛宕山、「米軍住宅ありき」はない

（畑原） それは私も同じですよ。私も「米軍住宅ありき」で愛宕山地域の問題を進めるべきではないと思っています。愛宕山地域の方々だけでなく、この地域の人には基地と共生してくらしてきたという思いがあります。国には十分に協力していると。私は米軍再編という国防、国政の課題には地域としても協力すべきという考えなのですが、その一方で、地域が感じている痛みや辛さには、国がきちんと対応しないといけないと思っています。だから、地域にとって一方的な負担と感

### ―岩国が「地域へのGPMI」に

（畑原） 遠い先のことのように見られている道州制、私は意外に近いのではないかと思います。平成の合併といわれる市町村の再編で県の役割、国の役割も見直さざるを得ませんから。ただ、そうなる、地域を自ら創っていく取り組みがこれまで以上に必要となります。少子化、高齢化が進む中で、財政的な制約も大きくなりますから、地域が知恵を絞って、それを広域自治体の県、将来的には道州が、また、国と一緒に支えていく、連携していく取り組みが必要な時代が直ぐそこに来ていると思っています。そういう地域づくりのモデルを、この岩国からはじめたいですね。

（福田） 本当にそうですね。私は市長として2年目を迎える今年は正念場と思っています。課題をひとつずつ着実に解決して、来るべき分権の時代に向けた基盤を創っていく年にしたいと考えています。畑原さん、これからもよろしくお願ひします。

（畑原） こちらこそ、よろしくお願ひします。私も、岩国地域のために、山口県のために、全力を尽くします。これからも一緒に頑張りますよ。期待しています。



はたはら もとなり  
1954年(昭和29年)5月13日生まれ。  
平成11年4月山口県議会議員に初当選。  
現在3期目。平成17年5月から2年間、  
文教警察委員長を務めた後、平成19年  
5月から総務企画委員長に就任。



ふくだ よしひこ  
1970年(昭和45年)6月14日生まれ。  
岩国市議会議員、山口県議会議員、衆議  
院議員を務めた後、平成20年2月の岩国  
市長選挙に立候補して初当選。県内で一  
番若い30代の市長として活躍中。

# 畑原基成 × 福田良彦 地域の思い、夢を実現するのが政治。 対立から連携に、 そして、一緒に明日を拓く。

山口県議会議員として3期目を迎え、総務企画委員長として活躍する畑原基成。昨年2月、混乱する岩国市政を何とかしたいとの思いで国政から市政に転じた福田良彦市長。ふたりは今、国立岩国医療センターの移転や愛宕山開発事業、岩国基地、民間空港の実現など多くの課題を抱える岩国市の再生のために一緒に頑張っています。急がれる課題の解決、そして、岩国地域全体の発展のために、今、何が必要か。明日の地域づくりを語ります。